

平成 25 年 7 月 月例労働経済報告のポイント

一般経済

- 景気は、着実に持ち直しており、自律的回復に向けた動きもみられる。
 - ・ 輸出は、持ち直しの動きがみられる。生産は、緩やかに増加している。
 - ・ 企業収益は、製造業を中心に改善している。設備投資は、おおむね下げ止まっており、一部に持ち直しの動きもみられる。
 - ・ 企業の業況判断は、改善している。
 - ・ 雇用情勢は、厳しさが残るものの、改善している。
 - ・ 個人消費は、持ち直している。
 - ・ 物価の動向を総合してみると、デフレ状況は緩和しつつある。

- 先行きについては、輸出が持ち直し、各種政策の効果が発現するなかで、企業収益の改善が家計所得や投資の増加につながり、景気回復へ向かうことが期待される。ただし、海外景気の下振れが、引き続き我が国の景気を下押しするリスクとなっている。

労働経済

- 労働経済面をみると、雇用情勢は、厳しさが残るものの、改善している。

(平成 25 年 5 月の指標)

- ・ 完全失業率 (季節調整値) は 4.1%。(前月と同水準)
- ・ 就業者数 (季節調整値) は 6,303 万人。(2 か月連続の増加 (前月差 2 万人増))
- ・ 雇業者数 (季節調整値) は 5,548 万人。(2 か月連続の増加 (前月差 3 万人増))
- ・ 有効求人倍率 (季節調整値) は 0.90 倍。(前月差 0.01 ポイント上昇)
- ・ 新規求人倍率 (季節調整値) は 1.42 倍。(前月差 0.02 ポイント上昇)
- ・ 現金給与総額 (原数値) は 267,408 円。(2 か月ぶりの減少 (前年同月比 0.1%減))